

野の仏

福田夢

汀

追分おひわかや泉いずみのほとりの一樹いちじゆの下もとに

秋風あきかぜを聴きき時雨しぐれに濡ぬれ雪ゆきに埋うもれて

春遠はるのちからじと合掌がっしょうし落花らつかを浴あび

蟬せみしぐれを迎むかえ傾かたむくは傾かたむくままに

欠かけたるは欠かけたるままの姿すがたで

じつと静止せいししている石いしの仏ほとけ

年月ねんげつも文字もじもなく風化ふうかするまま往還おうかんの去来きらい

盛衰せいすいの人の世ひとよを見守みまもっている

野のの仏ほとけには虚飾きよしやくなき人間にんげんの願望がんぼうや

慈愛じあいの情じやうがこめられている

社会しゃかいの变転へんてん現象げんしょうを越こえ去まる誠まことの象徴しょうちゆうのように懐なつかしい